

1 学校教育目標

○やさしく ○かしこく ○たくましく

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちにとって、学ぶ楽しさが味わえ、成長を実感できる学校 ○ 子どもたちにとって、安全で安心感のもてる学校 ○ 保護者や地域にとって、誇りと信頼がもてる学校 ○ 教職員にとって、教育者としての喜びが味わえる学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ やさしく…互いの人格を尊重し、心豊かな子 ○ かしこく…自ら学び、よく考えようとする子 ○ たくましく…目標をもち、最後までやり遂げる子 健康な生活を送ろうとする子
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己研鑽に努め、キャリアに応じた力量を身に付け、プロとして専門性の高い教師 ○ 児童・保護者・地域の願いを受け止め、深い児童理解ができる教師 ○ 教育公務員として、組織の一員として課題解決に努め、協働して職務を遂行できる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状>

- 明るく素直で人なつこい児童が多く、あいさつができる児童が比較的多い。 ○ 学校教職員の連携・組織力の向上
- 地域・保護者の皆様は、開かれた学校づくり協議会を中心に学校教育への協力があり、コロナ禍でも常に学校を見守っていただいている。

<成果>

- 「鹿浜五色桜小子どもガイドブック」遵守 ○ 課題解決的な学習足立スタンダードの実施・ノート指導の定着 ○ オリ・パラ教育のレガシーの形成
- 体育発表会・展覧会等の学校行事の成功 ○ 安定した学校生活(高学年が全校児童の手本 学力向上へ) ○ 情操を育てる美しい学校環境の維持

<課題>

- 知・徳・体バランスのとれた児童の育成
- 課題を解決して主体的に学ぶ力と人間関係形成力の育成

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	安全・安心な学校	○	○	○	○	○

3	保護者・地域と共に育てる学校	○	○	○	○	○
4	ICTの活用充実			○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学力向上アクションプラン
-------------------	--------------

A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
自ら学び考えようとする子の育成	区学力調査通過率85%	4月 国： 73.3% 算： 77.1% 2月 国： % 算： %	自ら学び考えようとする児童は増えている。 できる・できないの二極化が見られる。	○

B 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	計算チャレンジ	算数 全学年	通年	九九をはじめ四則計算のひっ算を定着させる	学力調査 ドリルなど	正答率85%	・九九カード、計算プリント等に取り組み、四則計算の定着を図る。 ・2年生九九定着率100%	・定着のためにはワークテストの解き直しを定期的に行う。 ・九九検定では多くの教員が関わる事ができた。	○
2 新規	図書室活用	全学年	通年	環境を整備し、単に読書の場だけではなく、調べ学習の場としても活用していく。	図書館資料 活用回数	活用回数50回	1月現在、調べる学習等での活用回数45回。	・図書館の資料を、授業での調べる学習や、内容を深めるために活用することができた。 ・児童が自ら資料を探す力を身に付けさせていく。	◎

3 継続	AIドリルの活用	国・算・社・理・英 全学年	通年	授業中の学習内容の定着 さくら教室 宿題	学力調査	通過率85%	学力調査 通過率 国：73.3% 算：77.1% AIドリル 一人あたり、日20 問、月400問達成 した。	・AIドリルが日常化 となり授業中、家庭 学習でも活用してい る。ICT端末の持ち帰 りも日常化してい る。	○
4 継続	さくら教室 (放課後補 習教室)	全学年 算数・国 語 学力テス ト目標値 未満 単元テス ト正答率 70%未満	毎週 月・木 放課後 30分 (教科は 隔月交 代)	【指導者体制】 担任+専科サポートメンバ ー4名 【取り組みのねらい・目的】 つまずきをさかのぼり、演習 を中心に個別もしくは少人 数指導。進度は各個人で異な るが、復習問題は、期間内に 終了するように、1日に進め る目安は伝える。 【使用教材】 区調査の過去問及び類似問 題プリント、ベーシックドリ ル	学力定着度確 認テスト (9月実施)	通過率85%	・毎週火・木の放課 後に実施。 ・前期は区調査で誤 答した問題の解き直 しを行う。 ・夏休み以降は授業 やワークテストにお いてつまずきがみら れる児童を対象に個 別指導を行う。 ・後期は次の学年の 過去問及び類似問題 に取り組む。	・時期に応じて課題 や対象児童を変えて 取り組むことができ た。 ・副担任が指導に入 り、サポート体制を 整えることができ た。 ・曜日にこだわらず、 週2回実施した。	◎

5 継続	サマースクール	全学年 算数国語 学力テスト目標値未 満各学年10 名程度。	夏季休業日中の10日間 各日50分	<p>【指導者体制】 学年の先生+他学年の先生+専科サポートメンバー4名</p> <p>【取り組みのねらい・目的】 担任の少人数指導のもと、進める。区学力調査復習問題集を進めながら、前学年の学習内容について、復習をしながら、定着を図る。復習問題が終わった時は、夏休みの宿題冊子等で、現学年の学習内容の復習を行い、定着を図る。</p> <p>【使用教材】区学力調査復習問題集・夏休みの宿題冊子</p>	区学力調査再調査 (9月実施)	目標値通過率 85%	<ul style="list-style-type: none"> ・10日間実施した。 ・学力調査の結果よりB・C層(基準値以下の8名)の児童。7月までの学習内容の補習的活動において特につまずきを感じる児童を対象とする。 ・学習プリント・AIドリルを活用して指導を行う。 <p>学力調査(9月再調査) 通過率 国:83.8% 算:85.3%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・算数を中心に中間層の児童を対象に実施。学力調査及びワークテスト等の問題に取り組んだ。 ・5・6年生はAIドリルを活用することで効率的に学習支援し、個別最適な課題に取り組むことができた。 ・9月の再調査では、算数において目標値85%を達成した。 	◎
6 継続	家庭学習の手引き発行・活用	全学年 全員 各教科 自学自習	年3回 4月、9月、1月	<p>【取り組みのねらい・目的】 自学自習力の向上 家庭学習強化月間とし、宿題の提出率を各教科で確認する。提出できない児童に対しては、その日のうちに放課後指導等で課題を終了させてから下校させる。</p>	宿題提出状況調査	宿題提出率90%	宿題提出率90%	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習旬間を年3回実施した。 ・取り組みを掲示し、意欲を高めたり、内容を改善したりすることができた。 	○
7 継続	小中連携 合同研修	ICT 全教員	年6回	研究授業 授業参観 情報交換	週案 授業観察	全員参加	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTリーダーを選任する。 ・各グループで実践を学び、授業発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通実践事項を設定して取り組めた。 ・児童生徒の情報交換も活発にできた。 	◎

8 継続	校内研究	国語 全教員	各学年 研究授 業1回	教科を設定し、主体的、対 話的で深い学びを目指し 研究授業を行う。	授業研究 授業観察	全員参加	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して同じ講師の先生にご指導いただいた。 ・説明文を構造的に捉え、授業改善に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観の視点を明確にしたことで、協議会の意見交換も活発になった。 	◎
---------	------	-----------	-------------------	---	--------------	------	---	--	---

重点的な取組事項－2		児童がより安全に、安心して元気に学ぶことができる環境を確立する。				
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
児童にとって安全・安心で元気な学校生活を確立する。いじめ解決100%を目指す。		保護者アンケート「安全・安心に関する項目」：肯定的な回答90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の90%が、安全・安心に関する項目に肯定的な回答をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な学習環境の整備、人権教育の充実を図ることができた。 	○	
B 目標実現に向けた取組み						
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度	
いじめのない学校生活の充実	いじめ解決率100%	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ相談箱やHyperQ-U検査によるいじめの早期発見および早期解決 ・自己肯定感の醸成を図りいじめ防止を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1月現在、いじめ調査で経過観察案件はあるが、ほぼすべて解決済み。 ・全学級で児童にSOSの出し方指導、生命の安全教育を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のトラブルについて早期発見し、組織的に対応できた。 ・必要に応じて、専門機関と連携していく。 	○	
安全・安心な学校の充実	学校施設の安全に関するアンケート：肯定的な回答85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の施設点検 ・施設の不備に関する早期改修 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の99%が、学校施設の美化の徹底に肯定的な回答をした。 ・毎月、全教職員で分担して施設点検を行い、早期改修に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の点検だけでなく、主事が清掃する際、床や壁の剥がれなどにすぐに気付き、対応したことで良好な環境づくりができた。 	◎	

あいさつの徹底	児童評価で元気よく あいさつができる児童 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職・複数の教員・PTAによる校門での挨拶（毎日） ・代表委員会によるあいさつ運動 ・来校者へのあいさつを各学年で指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職・複数の教員が校門で挨拶を実施した。 ・元気よくあいさつができる児童88% 	<ul style="list-style-type: none"> ・代表委員会、各学級のあいさつ運動を実施した。さらに有志児童が運動を行い、学校全体の取り組みとなった。 	◎
体力向上	自己目標を80%の児童が達成	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通じた体力向上 ・持久走・なわとびタイムの設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間の終わりに2分間走や短縄・長縄タイムを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時活動とすることで、児童が継続して取り組み、体力向上を図ることができた。 	○

重点的な取組事項－3	保護者や地域と共に子供を育む学校づくりを進める。
-------------------	--------------------------

保護者や地域と共に子供を育む学校づくりを進める。	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者や地域と共に子供を育む学校づくりを進める。	学校評価アンケート「家庭や地域との連携に関する項目」：肯定的な回答90%以上	「保護者・子どもたちの相談を受け止め、真摯に対応している」86%、「地域の活動に参加している」35%	・保護者との学年行事、地域との行事にすすんで関わることができた。	◎

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者との共育体制の確立	授業参観、保護者会等の肯定的評価85%以上	・授業参観、保護者会の内容の改善充実	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開、運動会や展覧会について、できる限り保護者に公開した。各学級90%以上の保護者が参観した。 「熱意をもって教育活動している」94% 	・保護者会の参加人数が少ないので、今後も内容の改善に努める。	◎

P T A や開かれた学校づくり協議会を中心とした協働体制の確立	学校評価アンケート・家庭や地域との連携に関する項目：肯定的な回答85%以上	<ul style="list-style-type: none"> 各部活動への協力 各学年の活動との連携 	<ul style="list-style-type: none"> P T A や開かれた学校づくり協議会と連携し、G0 フェスタや土曜スクールを開催した。 「P T A 活動に参加している」46% 	<ul style="list-style-type: none"> P T A 行事や土曜スクールの予定を年度の初めに設定したことで、連携しながら計画的に開催することができた。 	◎
体験的学習場面や地域の教材化や地域の人材を生かした授業づくり	校外学習・講師による授業等体験的学習を各学年1回以上	<ul style="list-style-type: none"> TGG など体験的な校外学習の実施 P T A ・開かれた学校づくり協議会との連携による学習場面の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 「TGG」「笑顔と学びのプロジェクト」「大根掘り」等体験的な活動を多く実施した。 開かれた学校づくり協議会と連携し「花いっぱい活動」「ボッチャ教室」を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の教材化や地域の人材を生かした授業づくりを展開する。「キャリア教育」「環境教育」等、実社会に関連の深い学びの充実を図っていく。 	◎
ICT 活用の充実のためグーグルのクラスルームをはじめ学習アプリ活用の充実とスキルを高める。	ICT 活用スキルチェックのステップ1, 2の内容はできるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 0JT で授業での ICT 活用例などを共有する 学校 ICT 活用スキルチェックを用いて実態を把握する 	<ul style="list-style-type: none"> スキルチェック1は全教員ができる。2については9割程度である。 0JT 研修を実施し授業で活用できるアプリを確認することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT スキル、授業での活用状況には差があるので、今後も ICT 研修を実施していく。 児童には情報モラルについても身に付けさせていく。 	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

①学力向上アクションプランについて

【課題】・通過率が昨年度の数値を国語0.1%下回った。(算数+3.7%)

【対策】・校内研究を通して授業改善を行い、物語文についても指導の流れを共通実践していく。

- ・モジュールと放課後学習を効果的に実践し基礎・基本の定着や弱点を克服する。各教科の授業が成り立つようにする。(足立スタンダード)
- ・ICTを活用し児童の定着度を把握したり、自由進度学習に取り組んだりして、個別最適な学びを実現していく。

②児童がより安全に、安心して元気に学ぶことができる環境の確立について

【課題】・年度内のいじめ解決率が100%に達していない。

【方策】・担任と保護者の連携により、いじめの早期発見、早期解決に努める。

- ・WEBQUを活用して、不登校傾向のある児童の把握や未然防止に努める。
- ・次年度の学年、学級へ確実な引継ぎを行う。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

・PTA 本部を中心に組織が充実しており、学校運営に協力的である。運動会、展覧会、学校公開など大きな行事での協力体制が素晴らしく円滑に行事を運営することができた。また、PTA 行事も計画的に実施することができた。特に G0 フェスタは盛況で保護者と地域、教職員が一体となり盛り上がった。来年度 10 周年に向けて保護者・地域と協力して取り組んでいく。

(3) その他（学校教育活動全般について）

・引き続き学力向上、安全安心な学校、保護者・地域と子供を育む学校の 3 本柱で来年度も学校教育活動を進めていく。